

信州がんセンター（腫瘍内科）臨床研修カリキュラム

研修責任者 神田 慎太郎

1. 研修科の特色

- ・ がんの診断と治療の原理・原則を学ぶことができる。
- ・ 様々ながん種の診断・治療が経験でき、科学的根拠に基づいた治療選択や、がん薬物療法の3つの柱である殺細胞性抗がん薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬について学ぶことができる。
- ・ がんの薬物療法だけでなく、がんや治療に随伴する感染症や電解質異常、内分泌異常、自己免疫疾患の診断と治療、緩和療法など内科全般的な診療が経験できる。
- ・ 国内外のガイドラインの活用や、臨床研究の論文の解釈など、治療選択のために必要な情報収集方法を習得できる。
- ・ 治療成績の向上を目指して行われる臨床試験を経験し、その意義としくみを理解できる。
- ・ がんゲノム医療拠点病院である信州大学医学部附属病院で、がん遺伝子パネル検査の運用に関わり、県下の連携病院と連携した専門家会議（エキスパートパネル）に参加することで、最新のがんゲノム医療を知ることができる。
- ・ 中心静脈ポートの穿刺や取扱、胸腔穿刺・腹腔穿刺などの手技を学ぶことができる。

2. 研修目標

一般目標 GIO

1. がん患者の病態を把握し、治療方針の立て方、治療の実際を学ぶ。
2. 様々ながんの標準治療の成り立ちを学ぶ。
3. がん診療における医師・患者関係の構築、およびチーム医療の重要性を学ぶ。

行動目標 SBO

1. 様々な悪性腫瘍の症状や予後を学ぶ。
2. がん治療（殺細胞性抗がん薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬、放射線治療）の特徴と利益（再発予防や延命、症状緩和などの効果）と不利益（副作用や経済的コスト）を説明できる。
3. オピオイドなどの鎮痛薬が適切に使用できる。
4. 患者の診療方針決定に必要なガイドラインや論文などの情報を収集することができる。
5. がんゲノム医療の概要を理解する。
6. 問診や理学所見に基づいて、診断・治療方針の決定に必要な検査を組み立てることができる。
7. 患者の全身状態・検査所見を把握し、治療の開始・継続の是非を決めることができる。
8. 中心静脈ポートの穿刺や取り扱い、胸腔穿刺、腹腔穿刺などの手技を学ぶ。
9. 患者の健康状態や予後、心理状態、社会的側面に配慮した診療が行える。
10. 医療チームの一員として、他科医師、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカーなど他職種と円滑に連携できる。

3. 研修方略

(研修期間が4週の場合)

1. (SB01, 2, 3, 4, 6, 7, 9, 10) 入院患者の診療を担当する。
2. (SB01, 2, 3, 4, 6, 7, 9, 10) 毎日スタッフと回診を行い、診断・治療方針を相談・共有する。
3. (SB01, 2, 4, 6, 7, 9, 10) 腫瘍内科カンファレンスで担当患者の治療方針や問題点を発表する。
4. (SB01, 2, 4, 9, 10) 関係科のカンファレンスに出席して患者の治療方針や問題点を共有する。
5. (SB05) がんゲノム医療エキスパートパネル(院内専門家会議)に参加する。
6. (SB01, 2, 3, 4) 各がん種、各種薬物療法についての講義を受講する。
7. (SB01, 2, 4) 担当患者の治療に関する臨床試験の英文論文を、スタッフの指導下で読む。
8. (SB01, 2, 4) 抄読会で臨床試験の英文論文の読み方を学ぶ。
9. (SB08) スタッフの指導の下で、中心静脈ポートの穿刺や胸腔穿刺、腹腔穿刺などを行う。
10. (SB010) 学生や実習生の指導に参加する。

(Advanced (4週以上)の研修の場合追加される項目)

11. (SB01, 2, 4, 10) キャンサーボードなどの症例検討会で症例を提示しディスカッションを行う。
12. (SB01, 2, 3, 4, 6, 7, 9, 10) 担当患者の治療方針を立案する。
13. (SB01, 2, 4) 学会や研究会で症例報告を行う。

4. 週間予定

	月	火	水	木	金
午前	8:30-9:00 腫瘍内科カンファレンス チーム回診	8:30-9:00 腫瘍内科カンファレンス チーム回診	8:30-9:00 腫瘍内科カンファレンス チーム回診	8:30-9:00 腫瘍内科カンファレンス チーム回診	8:30-9:00 腫瘍内科カンファレンス チーム回診
午後	16:00-17:00 がんゲノムプレ エキスパートパ ネル チーム回診	チーム回診	チーム回診	チーム回診	チーム回診
17:15以降	(第4週) 18:00-18:30 キャンサーボード		(第1, 2, 3, 5週) 17:00-18:00 エキスパートパ ネル		

※(金)17:30-18:00 研修医クルーズ

5. 評価

研修期間の評価

4 週以上の研修が不足なく行われていること。また、研修医は研修において経験した項目について随時 PG-EPOC に記録する必要がある。

研修中の評価

(形成的評価)

受け持ち患者の一日の診療内容を朝および夕方確認し、研修医による患者状態の把握、指示内容、翌日の計画を提示させ、指導医が確認・評価する。

研修後の評価

研修医は、当該研修科の研修期間の最終日まで、PG-EPOC の該当項目について自己評価を行う。自己評価が終了次第、当該科の指導医、指導者（看護師長）にその旨を報告し、評価を依頼する。研修中に経験した疾病、症状について病歴要約を作成・提出し、速やかに指導医へ評価を依頼すること。

(形成的評価)

研修終了後に PG-EPOC に研修医が入力した自己評価を元に研修責任者が評価を入力する。提出されたレポートは指導医（時に研修責任者）が確認し、内容によっては不備な点を指導し再提出を求める。

- 研修医評価票 I に基づく評価
指導医・指導者（看護師長）が、A-1 から A-4 の項目について評価し、印象に残るエピソードを記入する。
- 研修医評価票 II（1-9）に基づく評価
指導医・指導者（看護師長）が、1～9 の項目について評価する。
- 研修医評価表 III に基づく評価
指導医、指導者（看護師長）が、C-1 から C-4 の項目について評価し、印象に残るエピソードを記入する。

臨床研修評価表 I～III を基に、責任指導医は臨床研修の目標の達成度判定票を作成し、当該研修期間における目標の達成状況を判定する。

(研修科の総括的評価)

当該研修科を修了とするに不十分であると判断された場合、卒後臨床研修センター長と協議し、再履修とする。

※当科の臨床研修指導医は卒後臨床研修センターWeb サイトにて確認してください。

信州大学医学部附属病院 信州がんセンター（腫瘍内科）

■住所：〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 ■電話：0263-37-2554(直通) ■FAX：0263-37-3302

■E-mail：skanda@shinshu-u.ac.jp

■URL：http://www.hp.md.shinshu-u.ac.jp/cancer-center/